

我が世界観

2013年9月18日 [新村紘宇二](#) (血統・縄文系日本人)

私は、1940年(昭和15年)2月1日生まれであるから、現在73歳(辰年)である。早生まれであるから昭和14年(兎年)の方々と同期生である。生まれは東京・新宿(旧東京市牛込区)である。

さて、この73年間で私は一体何を学んだのだろうか。私の世界観はどのように形成されたのであろうか。なぜ今、このことを再度載せねばならないかという、愈々「第三次世界大戦」が『勃発』するからである。そして、かねてよりの『預言』通り、人類は終末を迎えるのだ。

私の「脳」は、次の方々の『世界観』『人間観』によって強く影響され『止揚』されている。

1. [ひろさちや](#) の「全情報」…私は、彼の仏教世界観が明快であり、わかりやすかった。
2. [松原久子](#) の「全情報」…私は、彼女の東西世界観が明快であり、わかりやすかった。
3. [田中宇](#) の「全情報」…私は、彼の情報收拾能力と客観的視野の広さに敬服している。
4. [加賀乙彦](#) の「全情報」…私は、彼の獄中者を含めた汎人間観の広さに敬服している。
5. [Wikipedia](#) の「全情報」…私は、これほど明快にして公正な大百科事典を知らない。
6. [新村紘宇二](#) 編「[フリーメイソンの深層](#)」・「[日本仏教史の深層](#)」・「[日本古代史の深層](#)」。

畢竟、再度、次の一文・四編を掲載するので、私の『預言』の『目』をしっかりと見てほしい。

その1 3つの世界大戦



フリーメイソンの黒い教皇 アルバート・パイク (1809-1891)

何度も繰り返しますが、フリーメイソンは世界最大の秘密的結社ではありますが、何ら怪しいものではなく、あくまでも真理の追究、他の人々の尊厳と自由と権利を認め、自由・平等・博愛を実践してゆく団体です。

しかしながら、世界のトップクラスの政財界の多くの人々が入会している事実からも、世界の政治・経済にまったく影響を及ぼしているものではないと言え、それは非現実的であると思います。

弁護士、詩人、作家として活躍していた、多才な南部連邦の将軍、いくつかのインディアンと協定を結び、「KKK」の創始者でもある アルバート・パイク将軍は、1857年に秘密結社イルミナティの最高幹部(最高位 33 階級)にまで登り詰め、「黒い教皇」と呼ばれるようになった人物です。

西洋社会では、ラッキーナンバーとしての7(メソポタミアのシュメール文明の七曜から来ている)、トリニティの3(キリスト教の三位一体)、不吉な13の金曜日(アダムとイヴが禁断の果実に手を出したのが金曜日、人類最初の殺人アベルがカインに殺されたのが13日の金曜日、イエスキリストの磔刑が13日の金曜日)と、数字が何らかの意味を成しています。タロット占いで13番目のカードは、死神です。

フリーメーソン組織は33階級ありますが、33という数字を聞いて思い浮かべなければならないのは、ユダヤ教のシンボリックな存在のソロモン神殿が建設されて33年間ヤハヴェ神の神殿として輝きを放っていましたが、その後ローマ帝国の兵士に破壊された事、またイエスキリストの生涯も33年間でありました。

ちなみにフリーメーソン日本支部のグランドロッジが東京の浜松町にあります、その隣にそびえ立つ東京タワーの高さは333メートル、竣工は昭和33年の天皇誕生日です。

少し話がそれてしまいましたが、アルバート・パイクが1871年にイタリアの革命指導者ジュゼッペ・マッシーニに送った書簡が有名なので、紹介したいと思います。

この手紙には、次のように書かれていました。

「世界を統一するために今後3つの世界大戦と3つの大革命が必要だ」

「第一次世界大戦は、ツァーリズムのロシアを破壊し、広大な地をイルミナティのエージェントの直接の管理下に置くために仕組まれることになる。そして、ロシアはイルミナティの目的を世界に促進させるための“お化け役”として利用されるだろう。」

手紙が送られたのが1871年。第一次世界大戦が始まったのが43年後の1914年です。第一次世界大戦では、ロシアは連合国の一員として、ドイツ・オーストリアと戦いましたが、敗北を重ねて領土深くまで侵攻されました。

そして、第一次世界大戦中の1917年に起こったロシア革命でロマノフ王朝は倒された。この時、ロシア革命を起こすべく、地下深くで活動し、革命勢力に資金援助を行ったのが、ユダヤ国際金融財閥のロスチャイルドと、日本政府から送り込まれた諜報部員の明石元二郎陸軍大佐です。

「第二次世界大戦は、『ドイツの国家主義者』と『政治的シオニスト』の間の圧倒的な意見の相違の操作の上に実現されることになる。その結果、ロシアの影響領域の拡張と、パレスチナに『イスラエル国家』の建設がなされるべきである。」

第二次世界大戦が始まったのが1939年。手紙が送られた68年も後のことで、「ドイツの国家主義者」をナチス、「政治的シオニスト」をユダヤ人に置き換えると、歴史はその通りになっている事が分かります。

「**第三次世界大戦**は、シオニストとアラブ人とのあいだに、イルミナティ・エージェントが引き起こす、意見の相違によって起こるべきである。世界を統一するには3回の戦争が必要であり、1回目はロシアを倒すために、2回目はドイツを倒すために。3回目はシオニストとイスラム教徒がお互いに滅し合い、いずれ世界の国々もこの戦争に巻き込まれ、それが最終戦争に結びつくだろう」

というのですが、まさに今日の中東情勢をみると、その通りに進んでおり、イラン問題から、日米英豪 vs 中露の構図ができあがり、尖閣諸島・台湾問題を引き金に日本と中国が戦争になる可能性も十分にありえます。

シナリオはこうです。アメリカ背後に、日本は尖閣諸島国有化宣言、中国は激怒し、日本をミサイル攻撃、日本はパトリオット/PAC3で反転攻勢、中国は日本を猛攻、日本は応戦、そして日中戦争に拡大。**見よ、戦争仕掛人どもの、おぞましい煽動を!!。**

今、世界の富は、日本と中国に集まっており、この地球上では、長く続いた白人支配は終

焉を迎えようとしていますが、彼らがそれを時代のトレンドだといって、簡単に認めるとは思えません。ここで、中国と日本が戦えば、工場を潰しあい、欧米の産業界は復活のチャンスを迎えます。また冷戦後、リストラの続く欧米の軍需産業にとっては、この金持ちの両国の戦いには、**笑いが止まりません**。さらに、中国と日本の国力が疲弊すれば、再び白人支配を取り戻すことができます。

また、中国にとっては軍事的に日本支配をするチャンスでもあり、資本主義経済で大金持ちになった中国の富裕者層にとっては、**この混乱に乗じて中国共産党を倒すチャンスでもあります**。

なによりもメリットが大きいのはアメリカで、この混乱に乗じて、得意の圧倒的軍事力を行使でき、世界制覇も不可能ではありません。**それと、天文学的な借金を、ドルを暴落させチャラにし、金兌換？の新通貨AMEROに切り替える大きなチャンスでもあります**。

中東発の世界的な大混乱は、まさしく第三次世界大戦を引き起こす引き金となり、宗教的にもハルマゲドンにより、救世主マフディ(イスラム教)、イエスキリスト(キリスト教)の降臨を実現させ、ミレミアムキングダム(至福の千年王国)の到来を待っているのが、今日のイランの旧アフマディネジャド大統領派と、アメリカのブッシュ大統領親子・**S & B**一門です。

第三次世界大戦の後には、何があるのでしょうか。それは世界統一宗教(フリーメーソンのような啓蒙思想的な擬似宗教)と、世界政府による**「新世界秩序」**なのであろうか!!。

「これらの混乱の時から、我らの目的、新世界秩序は現れることが出来るのだ。」

アメリカ大統領ジョージ H.W.ブッシュ 1990 年 9 月 11 日 国連演説

次の一文が「第三次世界大戦」の『核』である。

その2 エール大学 **S & B**



スカル・アンド・ボーンズのエンブレム

従来、アメリカの政界を牛耳っていたのはハーバード大学卒ですが、最近ではブッシュ親子、クリントン夫妻、ケリー元大統領候補、チェイニー元副大統領など、エール大学派閥勢力が強くなってきました。

エール大学には、エリート中のエリートしか参加が許されない秘密結社、**「スカル・アンド・ボーンズ」**、「スクロール・アンド・キー」、「ブック・アンド・スネーク」、「ウルフズ・ヘッド」、「エライアフ」、「ベルゼリアス」などがありますが、中でも**「スカル・アンド・ボーンズ」**が強い影響力を持っています。



この写真は、S & B(スカル・アンド・ボーンズ)の 1947 年の集合写真です。ジョージ・H・W・ブッシュが時計の左にいるのが分かります。

S & Bは、17 世紀末にオックスフォード大学のオール・ソウルズ・カレッジに設立されたフリーメーソン秘密結社に由来するものであり、エール大学内の秘密結社です。

ニューイングランド地方にある約 20 ほどの家系が、この秘密結社の中核をなしており、これらは 17 世紀にアメリカに渡って来た清教徒たちの子孫で、ホイットニー、ロード、ヘルプス、ワズワース、アレン、バンディ、アダムス、スチムソン、タフト、ジルマン、バーキンスなどというファミリーがあります。

後に、ハリマン、ロックフェラー、ペイン、デビソン、フィルスベリー、ウエーヤーハウザーなどの資本家たちもメンバーとして加わっています。

S & Bメンバーであるブッシュ大統領を見ても分かりますが、簡単に戦争を起こす **S & B** の思想は危険です。

これはどこから来ているかと言えば、**S & B**の創立者、ウィリアム・ラッセルは 1831-32 年にドイツ留学していますが、このときに流行していたヘーゲル哲学(国家主義)に強く影響されて、**S & B**の目的を国家主義に基づく「新世界秩序」としています。

当時ヨーロッパは、ナポレオンに支配されたショッキングな時代で、ドイツではナポレオンに負けたのは個人が利己主義で国家の事をあまり考えなかったからだという反省機運が高まっており、その反動で国家主義がうまれようとしていた時期でした。後のマルクスの革命思想やヒトラーのナチス、ファシズムにも大きな影響を与えています。

ヘーゲル哲学では、

「国家こそ絶対理性であり、国家の絶対性の前には、個人は無いという命題を持つ…」という非常に危険なもので、さらに国民に国家意識を持たすためには一人の大統領の任期中に 2 回くらいは戦争をやらなければならないという馬鹿げた考えを基本に持っているのが、今日の共和党の大統領です。

また、**S & B**はミュンヘンに設立された秘密結社トゥーレ協会とも密接に関係がありますが、この協会はゲルマン騎士団のバイエルン支部として設立され、この協会のマークは剣とナチのハーケンクロイツです。

S & Bは超国家主義で、ナチスを生み出した思想のヘーゲル哲学に深く関係があり、現に **S & B** 思想信奉したロックフェラーやブッシュの祖父はナチスに巨額の資金援助していました。ナチの資金源の多くは、アメリカの彼らからのものだったのです。

エール大学の **S & B** の歴史は、中国とのアヘン貿易に遡ります。

アヘン貿易を最初に仕切っていたのは、イギリスの名門のベアリングズ兄弟商会(クエーカー教徒)で、その実行部隊がイギリス東インド会社で、18 世紀以来のアヘン貿易に圧倒的な強さを見せたベアリングズ兄弟商会も衰退してゆき、19 世紀初頭にはロスチャイルドの台頭によりアヘンの権益を二分するようになりました。

その結果、ロスチャイルドとベアリングズ兄弟商会の双方が窓口となって、阿片の権益の一部をカボッツ、クーリッジ、フォーブス、ヒギングソン、スタージス、ロッジ、ローウエル、パーキンス、ラッセルなど当時ニューイングランド州にあった商人の一族たちに供与することになり、アヘン貿易で手を結んだこれらの金融・商業資本家たちが、その後ユナイテッド・フルーツ・カンパニー(のちのチキータ)やボストン銀行を設立しました。

たまたま、その中にラッセル家、パーキンス家という二つの**スカル・アンド・ボーンズ**メンバーがいて、これらのファミリーが**スカル・アンド・ボーンズ**への資金の窓口を務めることとなります。

アヘン貿易で莫大な富を手にしたのは、イギリス東インド会社、ジャーディン・マセソン商会、テント商会、バイパスブラザーズ、アメリカのラッセル商会、カマ・ブラザーズ、アソル伯爵夫人、バルカラス伯爵、イギリス王室ジョージ四世、などですが、ラッセル商会は、サミュエル・ラッセルが設立しましたが、エール大学の創設者の一人がこのラッセル一族のノディア・ラッセルで、従兄弟のウイリアム・ラッセルとタフトがエール大学内に**S & B**を創設しました。

このタフトの息子のウイリアム・ハワード・タフト(共和党)が、**スカル・アンド・ボーンズ**の、第27代のアメリカ大統領(1909-1913)です。

このように、エール大学**S & B**、ボストン銀行、香港上海銀行は中国のアヘン貿易の利益で出来たようなもので、ブッシュ家も含めて、アメリカの名門ファミリーも、アヘン貿易で富を得たのです。

現在、イギリスの海運貿易業界の最大の企業は、「ペニンスラー・オリエント航海会社」、通称「P.O汽船」ですが、この会社が設立されたのはアヘン戦争時で、創始者は、ベアリング家とインチケイブ卿です。インチケイブ卿は、香港上海銀行の主要株主でもありました。

この「P.O汽船」はアヘンを運ぶだけではなく、アヘン常用者の中国人苦力(クーリー)を奴隷としてアメリカに運びました。1846年には既に約12万人のクーリーが、ハリマン鉄道の西方延長工事に従事しておりました。

鉄道建設工事が終わっても、中国人クーリーたちは帰郷せず、サンフランシスコ、ロサンゼルス、バンクーバー、ポートランドに定住し、地元のアメリカ人たちと大きな摩擦を起こしながらも、中国人街(チャイナタウン)を形成してゆきました。

S & Bのエンブレムは、海賊船になびかせていたドクロの旗のマークと同じですが、まさしくアヘン貿易で大きな富を得た、イギリスやアメリカ東部の名門エスタブリッシュメントたちのやってきた事は海賊、そのものであると思います。

註 このエール大学 **S & B**の一員が、現エール大学教授浜田宏一である。浜田宏一は、安倍晋三が、森・小泉政権で官房副長官を務めたときの内閣府経済社会総合研究所長であり、現在の「アベノミクス」の生みの親である。つまり、**S & B**の血脈が、ブッシュ親子・浜田宏一をして森・小泉・安倍の売国在日勢力に受け継がれ、**亡国日本を迫っている**のである。

その3 ジョンズ・ホプキンス大学

あまり日本では知られておりませんが、メリーランド州ボルチモアにある、ジョンズ・ホプキンス大学は、医学の分野で、ハーバード大学と双璧をなす名門校であります。

心理学や哲学の分野では、フロイトを輩出したウィーン大学や、デリー大学の哲学科が世界の超一流とされていますが、ジョンズ・ホプキンス大学の心理学研究も世界に知られており、「**麻薬によって人間をロボット化する研究**」、「**電磁波を使って人間の脳をコントロールする研究**」、「**核兵器の恐怖により人間を支配する研究**」などが有名です。

また第二次世界大戦では「日本人の戦意を喪失させる研究」を行い、**東京大空襲・広島・長崎**

への原爆投下の計画は、**ジョンズ・ホプキンス大学**で練られたもので、これは「一般市民が、どの位、大量虐殺されれば、その国の国民、軍部が戦意を失うか」という心理戦争の効果を実験・検証するもので、この作戦は「**プルデンシャル一般大衆爆撃**」と命名され、作戦の指揮をとっていたのは、ルーズベルト大統領直属の「**心理戦争局**」の局長エイプリル・ハリマン(**ハリマン銀行社長**)であります。

脳みその足りないメディア関係者が、よく東京大空襲や原爆投下は民間人を対象としたホロコーストではなかったかと、まるで大それたことでも発見したかのように騒ぎ、議論しておりますが、小学生でも分かる当たり前の事です。

こんな程度で、職業としてお金を稼げるのだから、楽な商売だなと思うと同時に、いつもながらに、あまりのアホさにあきれ返るばかりです。

東京大空襲、また原爆を落とせば、大量の民間人が死傷することくらい、アホでも分かりますが、**アメリカは「プルデンシャル一般大衆爆撃」で、プルデンシャル生命保険の研究員達を現地にスパイとして潜入させ、東京大空襲、広島、長崎への原爆投下の後の社会心理調査を行い、ジョンズ・ホプキンス大学の心理戦争の効果を実験、検証していたわけです。**

フリーメイソンであったルーズベルト大統領の直属組織「心理戦争局」の局長が何故ハリマンかと言えば、黒人、日本人等の黄色人種を「絶滅」させるため、エイズ、天然痘、コレラ等の生物兵器を研究してきたニューヨークのハリマン優生学研究所を、そのまま大統領直属の組織に編成したものであったからです。

優生学研究所の研究員エルンスト・ルーディンは、アドルフ・ヒトラーの下でアウシュビッツのユダヤ人大量虐殺を「直接指揮」したナチスの「人種衛生局局長」で、「衛生」の意味は、黒人、日本人をはじめとする黄色人種を「バイ菌」と呼び、その「バイ菌」を絶滅させる事を「殺菌消毒」と呼び、「衛生管理」と呼んでいた事実から来ています。

日本人を絶滅させるなど、馬鹿げていると思われる人も多いかと思いますが、アメリカ大陸に渡ってきたイギリス人たちが、ネイティブ・インディアンに何をやってきたか、思い出して見て下さい。米大陸に**約5000万人**いたとされるインディアンは、虐殺で**約3万人**にまで減っており、**99.94%**のインディアンが虐殺されているのです。

アメリカは、先住民のインディアンを虐殺し、土地を奪い、ただで手に入れた土地の上に鉄道を敷き、その鉄道と駅周辺の商業により、その土地は価値のあるものとなってゆきました。当時は、政府が線路周辺の土地開発権を、鉄道業者に無料で開放したため、鉄道業者が石油、石炭、鉄鉱石などの資源開発により、莫大な利益を得ました。

その過酷な鉄道建設には、中国からの苦力(クーリー)と呼ばれる奴隷が使われました。過酷な重労働を行わせるために、阿片が与えられ、阿片中毒とさせ、逆らえば阿片が与えられない、という、阿片を用いて中国の苦力を従順な奴隷とし、ただ同然の賃金で働かせていました。1823年に、米国の阿片輸入専売会社であるラッセル社が作られましたが、中国の広東で、阿片と中国人奴隷の輸出入を担当した取締役が、ウォーレン・デラノで、そのデラノ一族は阿片の利益で大統領を輩出しますが、その大統領が第二次世界大戦中の、親中反日の**フランクリン・D・ルーズベルト**です。大統領は、中国の阿片・奴隷密売人のウォーレン・デラノの孫にあたります。

ラッセル社の経営陣に、ダニエル・コイト・ギルマンがいましたが、この一族は「阿片でいかに人間をコントロールするか」の研究に没頭し、それが後に心理戦争の概念に発展し、心理戦争の専門研究機関である、ジョンズ・ホプキンス大学が創立されることとなります。

ジョンズ・ホプキンス大学の創立資金は、全額ラッセル社から出資され、ダニエル・コイト・ギルマンは、1865年にジョンズ・ホプキンス大学の初代総長に就任しました。そして、ギルマン一族は阿片で得た財産を、「フーパー研究所・フーパー財団」の形で残しました。

フーパー研究所はレーガン政権で極端な核兵器の軍備拡張をプランしたことでも知られているところですが、これはまさに核兵器による心理戦争を受け持ったわけであります。

現在のアメリカ大統領のブッシュ一族は、このラッセル社の監査役を担当していましたが、イギリスが中国に持ち込んだのがインド阿片であったのに対し、ラッセル社はトルコから阿片を輸入し、中国に送り込み、麻薬中毒にした中国人奴隷を、ハリマン社などのアメリカの鉄道建設に従事させていました。

トルコで、ブッシュ一族の阿片農園を経営していたのが、後にナチスを創立した、ドイツのゼボッテンドルフ一族で、よくブッシュ一族がナチスに支援していたと言われますが、このトルコ阿片でつながっており、ブッシュ政権では露骨な親トルコ政策が行われているのは、この阿片利権と無縁ではないでしょう。

このトルコのゼボッテンドルフ一族の農園を警備し、ゼボッテンドルフ一族と競合する業者を殺害するために雇われていたのが、イスラム過激派テロ組織のアサシンであり、テロ組織アサシンへの阿片提供の見返りに、ブッシュ一族はアサシンに警護され、阿片ビジネスをトルコで安全に行っていたわけです。

アサシンは現代ではアルカイダとなり、9.11 テロでも話題となりましたが、ブッシュ一族とアルカイダの一体化、またそれはアサシンとの一体化を回帰させるものであります。

また、CIAスパイ養成所として知られる、名門エール大学はラッセル社の阿片利益で創立されましたが、エール大学の秘密結社スカル&ボーンズは、ブッシュ一族と関係が深い事でも有名であります。

スカル&ボーンズの創設者は、ダニエル・コイット・ギルマンで、創立メンバーはギルマンの他、ウィリアム・ハンティントン・ラッセル、アルフォンソ・タフトなどがいます。

この秘密結社は、templar騎士団、フリーメーソン、円卓会議ネットワークなどと密接に結びついていて、スカル&ボーンズのシンボルの髑髏マークは、聖堂騎士団などブラザーフッド系悪魔主義結社の儀式に用いられる髑髏に由来しています。

麻薬・奴隷密売業者ラッセル社の船の旗には、この髑髏マークが常に翻っていました。髑髏の下に 322 という数字がありますが、これは英国では、オックスフォードやケンブリッジやエディンバラなど、各大学に強力な秘密結社が存在しており、強固なネットワークを形成しており、スカル&ボーンズは、1832-1883 年頃にドイツの秘密結社の第 322 番支部として合衆国内に設立されたことに由来します。

当時は「死の兄弟団」と呼ばれていたらしいのですが、コネチカット州にあるエール大学に「墓」と呼ばれる窓のない建物を、スカル&ボーンズは拠点としており、今日の世界政治を動かしているのは、東部エスタブリッシュメントの彼らであります。

スカル&ボーンズを創立したダニエル・コイット・ギルマンは、麻薬で得た財産を減らさないよう、後にロックフェラー財団やカーネギー国際平和基金など、免税権を持つ「財団」制度をアメリカに作りあげました。

スカル&ボーンズには、誰でもが入会できる事は無く、「レプティリアンの遺伝子を受け継いでいるかどうか」が問われます。

そして、世界の権力者たちが公式な場で、我々に見せつけるかの如く出す、悪魔のサイン (Signs of Satan)は何を意味しているのでしょうか？



イギリス最大の銀行 HSBC(香港上海銀行)が中国の阿片ビジネスの利益で創立されたように、アメリカも、中国人を奴隷化した阿片ビジネスで、莫大な富を得ました。

ラッセル社の経営陣の1人にクリーブランド・ドッジがいますが、世界最大の銀行シティバンクは、このドッジ一族とブッシュ一族で経営されていたものです。戦後の日本経済を復興させる代償として、米軍を常駐させ、日本を中国とロシアに対峙させる政策のドッジラインは、デトロイト銀行頭取のジョセフ・ドッジが立案したものです。

また、ラッセル社創立時の取締役、ジョン・フォーブスがいましたが、世界の富豪を紹介する雑誌「フォーブス」は、彼の一族が創刊したものであり、2007年の大統領選挙でブッシュと戦った、民主党のジョン・フォーブス・ケリーも、フォーブス一族です。

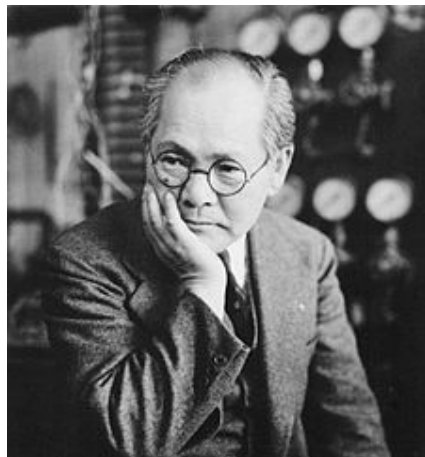
名門プリンストン大学も、このラッセル社に協力しながら、単独で阿片を密売して利益をあげたグリーン一族が創立したもので、コロンビア大学もラッセル社の役員をしていたアビール・ロウが阿片の利益で創立したものです。

ラッセル社役員のジョセフ・クーリッジは、クーリッジ大統領を輩出した名門ですが、彼もまた阿片で儲けた利益で、中南米で奴隷を使ったバナナ農園開拓に乗り出し、奴隷たちが反乱をおこさないように、強力な軍隊でスパイ・監視する弾圧組織をつくりましたが、この組織が後にCIAとなってゆきます。

話を日本に戻すと、第二次世界大戦後、トルーマン大統領直属の心理戦争局局長には、ハリマン銀行会長エイブリル・ハリマンが就任し、ジョンズ・ホプキンス大学と連携をとりながら、日本が二度と立ち上がって来れないように、日本人をいかに洗脳し、コントロールするかの研究が行われました。

そうして、こんな簡単なことも洞察できず、いとも簡単に彼らにのせられてしまい、戦争に勝った側に媚びへつらい、尻尾をふっているのが、情けなく、脳みそが足りない、アホ丸出しの反日左翼主義者たちなのであります。

その4 日本の原爆開発



[仁科芳雄 博士](#) (1890-1951)

1942年6月、フリーメイソンのフランクリン・D・ルーズベルト大統領は、国家プロジェクトとして、原子爆弾の研究開発着手を決意し、1942年9月にレズリー・リチャード・グローヴス准将が責任者として着任し、マンハッタン計画はスタートしましたが、日本では1941年(昭和16年)に、陸軍が理化学研究所に原子爆弾開発を委託し、1943年1月に同研究所の仁科博士を中心に開始されました。もう一方で、日本海軍も1941年5月に京都帝国大学理学部教授の荒勝文策に、原子核反応による爆弾の開発を依頼し、1942年には核物理応用研究委員会を設けて、京都帝国大学と共同で原子爆弾の可能性の検討に入りました。

すなわち、日米共に、ほぼ同時期に原子爆弾の開発プロジェクトをスタートさせた事にな

ります。

日本帝国陸軍と日本帝国海軍の原子爆弾研究のプロジェクトコード名は、「二号研究」と「F研究」で、仁科博士の頭文字「二」と、核分裂(Nuclear Fission)の「F」をとったものです。

原子物理学に関しては、江戸時代生まれの長岡半太郎が、世界で最初に今日の原子構造を提唱し(ボーアは9年後に長岡の原子構造が正しかった事を証明)、以降 彦根忠義、仁科芳雄、荒勝文策、湯川秀樹、朝永振一郎、江崎玲於奈、西澤潤一など、世界をリードしてきました。

何故か日本人で知る人は少ないのですが、世界最初にCPU(メモリー機能を持ち、ソフトウェアによって動くIC)の概念を考え出し、Intel社に技術ライセンスしたのも、ビジコン社の嶋正利です。その契約書まで、今日ではWebでも紹介され、1998年米国の半導体生誕50周年記念大会で、"Inventor of MPU(Micro-Processor Unit)"(マイクロプロセッサの発明者)として表彰も受けております。

話を、原子爆弾開発に戻しますが、日本では1934年に東北大学の彦根忠義が、アインシュタイン、オッペンハイマー、ボーアなど欧米の超一流の科学者がまだ予期していなかった原子物理学理論を打ち立て、いずれそこから引き出されるだろう、巨大な破壊エネルギー、核兵器が誕生する事も予測していました。

しかしながら、彦根の論文は、欧米の学会、またボーアからも無視され、彼らは彦根(日本人)を嘲笑しながら、実はその先端理論を盗んでいたのです。

彦根は、「陽子と中性子が原子核内ではっきり分かれ、しかもその間に、宇宙最大のエネルギーが潜んでいる。だから人類は、それを悪用せずに制御しなければならない」と説いたものの、日本の学界では、彼の考えを理解できず、彼の理論を認めようとしませんでした。

自分に自信が無いから、欧米の一流の学者が認めたら、日本の学界も認めるという体質は悲しいかな現実であります。

日本の物理学界に失望した彦根は、同じ東北大学の研究者の勧めで、米国の物理学会専門誌「フィジカル・レビュー」に、「原子核エネルギー(利用)新法に就いて」という論文まで送っています。

しかしながら、欧米の学会は彼の功績を認めようとせず、むしろ嘲笑し、ボーア博士に直接会って説明しても、認められることはありませんでした。

当時、ボーアの理論では、「陽子と中性子は分かれずに一体になって、ごく小さな液滴の形に似た原子核を作っている」としていたので、これでは核爆発など起こるわけがなかったから、彦根の論文を認めたくなかったのであります。

しかしながら、彼らの行った事は、彦根を嘲笑しておきながら、彦根の功績を盗用し、容陽子と中性子は別れているとし、原子爆弾の開発競争に入ったのです。

その情報をキャッチした、日本政府も、本格的に原子爆弾の開発を着手するようになったわけです。

日本の原子爆弾開発で最も大きな問題は、原料のウランを入手する事が困難であった事で、当時は人形峠のウラン鉱脈も知られておらず、福島県石川町などでは閃ウラン鉱、燐灰ウラン石、サマルスキー石などが採掘されましたが、含有量の少ない物がごく少量採掘されるだけであったのです。

すなわち、原子爆弾1個に必要な臨界量以上のウラン235の確保は絶望的な状況であったわけです。そのため、日本海軍は上海の闇市場で酸化ウランを購入したり、ナチスドイツから二酸化ウラン(U235)入手を試み、日本海軍庄司元三技術中佐と友永英夫技術中佐、ドイツ空軍ウーリッヒ・ケスラー大将、海軍士官4名、ドイツ人技術者2人などを日本に送り届ける任務をうけて、潜水艦U-234に酸化ウラン(U235)560kgを積み、キール軍港を出港しました。

しかしながら、1945年5月8日、日本に向かうU-234は、大西洋上でドイツ無条件降伏の打電を受けました。Uボート乗員たちは討議の末、日本人士官二人を監禁し、洋上で米軍の米護衛駆逐艦「サットン」SUTTON (DE 771)に降伏しました。

560Kgの酸化ウランは大きな量に思われるかも知れませんが、濃縮ウラン 3.5kg 相当に過ぎず、原爆に必要な 50kg には到底及ばない量であります。

ともかく、原爆 1 個すらに必要なウランを入手できない日本において、原子爆弾の開発は現実無理であり、昭和 20 年(1945 年)5 月 15 日のアメリカ軍による空襲で理化学研究所の熱拡散塔が焼失したため、研究は実質的に続行不可能となり、同 6 月に陸軍が研究を打ち切り、7 月には海軍も研究を打ち切り、ここに日本の原子爆弾開発プロジェクトはなくなりました。

そして日本は、アメリカによる 1945 年 8 月 6 日の広島市への原子爆弾投下、8 月 9 日の長崎市への原子爆弾投下で決着はつき、9 月 2 日にポツダム宣言受諾の降伏文書に調印。


日本の科学技術力に脅威を感じていたアメリカは、自分たちが原爆等他でやられる前に、「ガーター騎士団」である天皇家との密約により、故意に「無条件降伏」を突きつけ、日本軍部に「本土決戦」を煽り、原爆完成まで戦争を引き延ばし、完成直後、たった一度の原爆実験(トリニティ実験)のみで、広島・長崎に『悪魔の卵・原子爆弾』を投下し、虐殺の人体実験をしたのです。

悪魔の卵



原子爆弾・ファットマン

私(新村)は、誰が原爆を作り、誰が国際法・ジュネーヴ条約を無視・違反して、我が国の広島・長崎に原爆投下したのかを問うつもりはない。私が問うているのは、原爆という悪魔の兵器を作り、人々の頭上に投下し、その殺戮によって『屍姦』を弄んだ、金権亡者(悪魔)の「魔性」を問っているのである。この「魔性」の正体こそ『生け贄の冠』⇒ノーベル賞であり、ニセモノ(メッキ)の金銀銅メダルなのである。桂冠の五輪は『馳の狂騒』なのだ。

アメリカは猛省すべきである。アメリカ・インディアン 5000万人を虐殺し、更に、日本人を原爆で虐殺した「魔性」を!!。アメリカの一つ目小僧よ  お前が『悪魔』なのだ!!。

根絶

六大差別

宗教・人種・文明・制度・職業・貧富

日本義塾 主宰 新村紘宇二